

いかないと、それこそ6年生まで保育しなきゃいけないのだと思いますよ、私は。

ちなみに私のところの子供は、早く飛び越えさせてしまったがね、年長組と1年生で2人で留守番してました、兄弟がいるからですけども。これはちょっとかわいそうな思いをしたと思うけれども、学童クラブなんてなかったからしょうがないですよ。だけどそういうことの例なんかもありますので、保育に欠ける児童がいるのは就学前までです。そこをはっきりしないと私は都合が悪いと思います。以上で終わります。

○町田義昭議長 ここで暫時休憩いたします。再開は3時20分といたします。

午後 2時58分 休憩

午後 3時20分 再開

+ ○町田義昭議長 休憩前に復し、市政一般に関する質問を続行いたします。

谷口栄子議員の質問

○町田義昭議長 順位5番、議席番号5番、谷口栄子議員。

(5番谷口栄子議員登壇)

○5番 谷口栄子議員 きょうの質問の最後になりました。しばらくのご清聴よろしくお願いたします。

6月定例会に当たり、通告しております2点について一般質問させていただきます。

答弁は内谷市長、那須農林課長、齋藤商工観光課長にお願いいたします。

初めに、6月定例会はあやめ議会としてあやめ公園開園100周年を祝して、議場にこのよう

にアヤメ鉢を飾っていただいております。初夏の花、凜とした清楚なアヤメの美しさに心洗われます。先人たちが大切に守り咲かせてこられた宝である長井古種、アヤメに改めて感謝いたします。

アヤメ期間中、多くの市民の皆様にあやめ公園に足を運んでいただけることと、復活する長井おどり大パレードの大成功をお祈りいたします。

さて、鳩山政権は、政治と金、普天間移設問題、郵政見直し法案の強行採決などで国民の政治不信を招いたあげく、2日に突然、小沢幹事長と退陣し政局が混乱。参議院選挙目前に菅直人新首相と交代しました。新首相誕生に国民の関心をそらしても民主党の献金問題、土地購入問題の真相解明はなされていません。

公明党には地方議員を含む3,000人を超える議員のネットワークがあります。また、3割を占める女性議員の視点を生かして、新しい福祉を提案し、声の届く政治、クリーンな政治、真に国民の生活を守るため参議院選には断じて勝利してまいりたいと思っております。

それでは質問に入ります。

1点目、家畜伝染病の口蹄疫対策についてです。

午前中、14番の小関議員のご質問にもありましたので、答弁の方、重複いたしますけれども、よろしくお願いたします。

宮崎県の家畜伝染病口蹄疫の被害が爆発的に拡大しております。口蹄疫は牛や豚など偶蹄類の動物がかかるウイルス性の伝染病、口の中やひづめのつけ根に水泡ができ、乳の出が悪くなったり肉質が落ちたりするとのことです。人間には感染せず、感染した家畜の肉を食べても影響はないと言われますが心配です。

感染力が強いため、感染した家畜だけでなく一緒に飼育されている家畜もすべて殺処分することが義務づけられているのです。殺処分の対

象となる牛や豚は、新たに20万頭加わるのです。この中には宮崎牛ブランドを支え、松阪牛などの子牛供給源でもある貴重な種牛が含まれているのです。

宮崎県の東国原知事は、5月18日、非常事態宣言を発表し、感染拡大防止と早期撲滅に取り組む姿勢を示しました。さらに感染が広がれば、経営体力の弱い畜産業は破滅的な打撃を受けかねない状況です。政府は、予算措置を含む政策と封じ込みを万全を期して実施すべきです。

国内で口蹄疫が確認されたのは、2000年、宮崎県と北海道で740頭の牛が処分され、3カ月で終息したとのこと。今回4月20日、最初に感染が確認されてから1カ月で前回をはるかに上回る規模に被害が広がった大きな原因は、政府の初動のおくれにあったことが明らかになっています。

ことしに入って周辺諸国で口蹄疫感染が確認された韓国では4月に被害が拡大していました。こうした状況のもとで警戒が十分でなかったとの見方です。

5月19日、政府はようやく発生地から半径10キロ管内の家畜にワクチンを摂取した上で殺処分することが決まりましたが、農家支援の具体策は定まらず、家畜農家から怒りの声が上がっていました。

公明党はいち早く口蹄疫防疫対策本部を立ち上げ、地元川南町の町長、宮崎県の東国原知事からの要望を受け、事態の早期収拾、蔓延防止と被害農家の経済的支援を迅速に行うため、特別措置法の制定を提案、さらに1,000億円規模の緊急対策予算案を要望。5月28日、公明党のリードで特別措置法が成立、ワクチン接種は感染拡大をおくらせるための措置で、埋却場所が見つかり次第、これら未感染の牛や豚もすべて殺処分されるのです。

5月30日付の河北新報では、東北畜産関係者も口蹄疫の拡大を警戒している内容の記事が載

っておりました。山形県の対応は、31日の県の協議会で打ち出されております。長井市には畜産農家が55軒で、乳牛401頭、肉牛903頭、養豚では230頭飼育されていると言われます。17頭の乳牛を飼育している知人は、一頭一頭の体調の変化を観察しながら、配布された消石灰を畜舎にまきながら不安な毎日を過ごしておりました。

危機管理体制と拡大防止対策について、対応がおくれれば一大事になります。また、本市の対応について。1と2については市長にお伺いいたします。先ほどの答弁で重複するところもありますがよろしくお願いたします。

ことしはあやめ公園開園100周年を記念して、～米沢牛チャンピオン牛の郷～長井黒べこまつりも企画されています。市民参加型のコミュニケーション情報誌が発行され、「あやめれば」という名前で5月号に掲載されています。この広告も市外の人にも触れる情報誌です。宮崎県の口蹄疫は全国に大きなショックを与えているものです。催し物にも影響が出ているようです。黒べこまつりの影響について、那須農林課長に伺います。

次に、観光振興コーディネーターの設置についてです。

本市の観光が産業として成立するためには、桜、ツツジ、アヤメ等の季節的な観光だけでなく、年間を通じて収益が期待できる観光の形態が必要となってきたこと。年間を通じた観光への導入としては、近年フットパスなどの整備を契機として、またローカル線への注目によるフラワー長井線の観光客数の増加など、まちなか観光の可能性が増大していることを挙げておられます。

まちなかの資源に関しては、資源として注目されている近代建築物や古い町並みはあるものの、観光商品などが不足し、産業として未発達であることから、まちなかの資源を開発し着地

+

的観光の推進を図るべく、観光商品の企画、開発、PRに力を入れることが目的とされています。

1 番目の観光事業のビジョンについて。

4月に埼玉に行ったときです。大宮駅の待合室に、全国のいろいろな観光ガイドブックの中に、「新幹線で桜を見に行こう」のチラシと「やまがた花回廊」のガイドブックを見つけました。思わず手にとって、年々ガイドブックの内容がよくなっていることを思いました。花と食と歴史の県南、春のキャンペーンは4月1日から6月30日となっています。米沢エリア、上山エリア、高畠・南陽エリア、それぞれ地域を代表するスポットをPRしながら、長井エリアでは黒獅子まつり、あやめ公園100周年とフットパス、丸大扇屋など、最上川堤防の千本桜、さらにまちなか歩きにびゅうマークのついている観光スポットは、JR専用パンフレットで旅行プランとして紹介されています。コーディネーターのアドバイスが加われば、新しい発見が期待されます。観光事業のビジョンについて市長に伺います。

また、農工商連携との関連についても市長に伺います。

4月16日オープンした市民直売所は、「おらんだ市場菜なポート」としてオープンしました。当面はまち歩き、市民の憩いの場としての、またレインボープラン認証農産物を多くの市民に販売できる場所として、農産物のブランド化、生産販売拡大への取り組みに、新しくコーディネーターのアドバイスが大事であると思います。

グリーンツーリズムでは、「半日だけでも長井人」というパンフレットがあります。とっておき農村体験という農家れすとらんなごみ庵、蔵高宿、農家民宿、葉っぱ塾など紹介されています。また、長井はものづくりのまちとしてノウハウを持っており、商品の開発や新しい企業開発にもコーディネーターのアドバイスは大

きな力になると思います。

フラワー長井線の山形鉄道株式会社、野村社長は、精力的に観光客を長井に誘客されています。野村社長は、月刊誌山形版の「ほいづん」に寄稿されています。昨年の8月号より「野村社長が走る、いとしのフラワー長井線」という題名で寄稿されています。2月号に無から有をつくる中で、社長は運転手の朝倉さんの方言ガイドが関西からの観光客に大好評ということを話しておられました。「4年前は360人しか集まらなかった観光客は、今は1万7,000人ものお客様に長井線に乗ってきていただけるようになった」と話しておられます。「何もない観光地でも切り口を変えれば人は集まる」「マイナス掛けるマイナスはプラスになる」と語っておられます。野村社長さんとも一緒に長井の観光を考えていただくチャンスとも考えられます。どのような方を考えておられるのか教えていただきたいと思います。

また、まちなかの資源を活用した観光、商品の開発には、一人のどんなにすぐれた知恵だけでは大きな結果は得られないと思います。一つ一つの開発、企画、それぞれプロジェクトチームをつくり、多くの人の知恵の結集、多くの人が結集すればすばらしい成果が生まれると思います。総合力で取り組むことが大事だと思います。

また、コーディネーターには7日間しっかり長井に入っていただく雇用にすべきと思います。

3番目につきましては、商工観光課長の考えをお伺いいたします。

以上で、壇上からの質問を終わります。ありがとうございました。（拍手）

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 谷口栄子議員のご質問にお答えいたします。

最初の第1点目の家畜伝染病の口蹄疫対策についてでございますが、まず、最初の危機管理体制と拡大防止対策について、どのような対応

をしているかという点についてお答え申し上げます。

先ほど小関議員のご質問にもちょっと重複いたしますが、5月の31日に開催されました山形県口蹄疫対策本部の対応マニュアルを参考にいたしまして検討を行ってきたところでございます。

拡大防止対策の以前に予防対策が大変重要でございますので、消毒液用の箱の配布や消石灰の配布を行ってきたところです。また、家畜衛生保健所からは家畜衛生だよりを通じまして、予防的対応策などについて示されております。

残念ながら私も市町村ではなく、県の家畜衛生保健所に農家の方からのいろんな情報が寄せられて、そして家畜衛生保健所の方で調査して、発生といいますかね、疑わしいかどうかとか、あるいはいろいろな抗体等からDNAを鑑定して、国の方にこれはなるわけでしょうけども、口蹄疫かどうか判定するというような状況になっておりますので、そういった意味では、県とのしっかりとした連携をとりながら、そして農家の方の対応をお願いしているところでございます。

本市の対応についてでございますが、これにつきましては5月の20日、市内畜産農家55戸に対しまして、消毒液を入れる箱を配布したところです。5月の25日、市内畜産農家に消毒用消石灰の配布を決定いたしまして、これは牛5頭、豚20頭当たり1袋ということで、合計で314袋が必要だと、プラス保管用36袋で350袋を確保いたしまして、ちょっとおくれてしまいました。6月2日、消石灰の配布を完了したところでございます。これはどうしても品薄だったということでございます。

6月の4日に「第1回長井市口蹄疫対策に係る庁内連絡調整会議」を開催したところです。出席者は私と副市長、危機管理主幹、財政課長、企画調整課長、建設課長、市民課長、教育委員

会の管理課長でございます。

会議では、これまでの対応状況の説明と県対策本部マニュアルの内容の説明とともに、市として想定される対応について説明を行うとともに、「(仮称)長井市口蹄疫防疫対策本部」の設置時期あるいは組織などについて協議を行ったところです。市としての対応本部マニュアルについては、置賜総合支庁のマニュアルを参考にして準備を今進めているところでございます。

次に、最初の項目の(3)黒べこまつりの影響でございますが、口蹄疫の影響により、子牛価格の上昇や牛肉価格の軟化などが想定されておりますが、県の会議でも山形牛ブランドを高めて消費拡大に努めていくという説明がございました。黒べこまつりは、米沢牛の郷として畜産の振興という面も大きな目的ですので、多くの市民の皆さんに喜んでいただけるよう準備を進めております。チケットはタス物産館、菜なポート、JAあやめ支店、農林課で販売を行っております。ポスターなどは作成しなかったもので、今回PR不足の面はあったと思いますが、市のホームページや市報でもPRを行っているところでございます。チケットは残りあとわずかということになっておりますので、ほんの数枚程度しか残ってないという状況でございました。

なお、やはりこういった口蹄疫対策といたしまして、先ほども申し上げましたが、全国市長会の方で国に対する緊急決議ということで、対応の万全を決議したところでございますが、同時にほかの地域でも宮崎に対して義援金みたいな形で送るというような動きが昨日までの市長会で報告がありましたので、ぜひ今度の19日の黒べこまつりの際も、そういった対応をぜひ実行委員会の方で検討いただくようにちょっと相談したいというふうに思います。

次に、2番目の観光振興コーディネーターの設置についてお答え申し上げます。

議員の方からは3点ほどご質問いただきました。

まず、観光事業のビジョンについてということでございますが、残念ながら長井市では、まだ観光振興計画というものをつくってありませんが、これは私として、まだそこまでは至っていないんじゃないかと、この計画をつくることも大変重要なんです、方向性がまだ定まっておられませんし、計画をつくっても絵にかいたもちになる可能性が高いなということから、むしろもう少し観光客をふやす施策をいろいろ検討しながら、時期を見て観光協会等々と協議しながら観光計画をつくる必要があるというふうに思っております。

そういった意味で、私の全く私案になるわけですが、私のビジョンといたしましては、やはり昭和50年代から比べますと、おきたま花回廊、さくら回廊とか、あとは4年目になりますやまがた花回廊、谷口議員の方からも先ほど指摘ありましたように、首都圏のJRの主要駅でポスターを見ることができますけれども、そういった部分はふえましたが、特にアヤマについてはかなり観光客減っております。例えば6月の初めにオープンしました寒河江のはなさかフェアとか、ああいったところにお客さん随分流れているんじゃないかなあというふうに思っていますし、近くでもゆり園とかオープンしましたが、ゆり園なんかはむしろ連携しなきゃいけないというふうに思っておりますが、やはり長井の観光の弱点は、短い期間のシーズンしか観光客という方はいらっしゃらない、そういうまちだということから、通年観光をどういうふうにして実現するかということと、それから観光協会や商工会議所でも努力していただいているわけですが、まちなか観光ですね、まちなか歩きということをどういうふうにしてお客様に楽しんでいただくかということが、まず大きなビジョンだなあというふうに思っております。

そして、観光交流客をふやして、これを活性化することによって、商店街が低迷してる、あるいは人口の低下によりまして市内の経済力が落ちているわけですから、そういった部分で経済波及効果をねらっていくということが大きな柱になるんじゃないかと思っております。

そのために、今回の観光振興コーディネーターの目的にもなるわけですが、観光協会は理事の皆様始め市民の皆様大変ご協力いただいております。特に女性のつむぎの会ですとか、あめの里レインボーとか、さまざまな団体が昨年開拓いただきました「長井のあがっておごやえ」という弁当とか、そういったものの取り組みなども大変ありがたいというふうに思っております。

また、着地型観光といたしまして、まちづくりNPOセンターあたりを中心として旅市のJRの方と組んで、そういった商品開発もいただいておりますが、残念ながら目立った観光客の増加というのはふえていない状況でございます。

そういった中で、一番注目されるのは谷口議員もご指摘のとおり、フラワー長井線の動きだというふうに思っています。昨年の桜の時期に、去年は3,000名ぐらいだった観光客をことしは1万人までふやしましたし、ですから、例えば今回のあやめも6月の26日、今のところ予定されているのはクラブツーリズムとか、あるいはJR東日本のびゅうバスとか旅市の商品で、26日、一日だけでも団体客ですけど1,800名がいらっしゃる。こういった動きなどがあるかと思えますけれども、これはやはりフラワー長井線の方の山形鉄道の営業努力というふうに思っております。

今回のアヤマの時期は、長井にそういったことでおりにいただいて、フラワー長井線に乗っていただいたお客さんに、地元いろんな食事ですとか、経済効果をもたらせていただいているわけですが、残念ながら、今までフラワー長

井線の大部分の方は、山形鉄道の営業で乗っていただいた方も長井にはおりにいらっしやらないですね。

ですから、こういったところを工夫する必要があるということから、昨年やはり商工観光課の中に産業振興コーディネーターを置いたわけです。ことし2年目も議会の皆様にご承認いただいて、今活動していただいているわけですが、これと同じような考え方、いわゆる市内の企業の皆様の受注開拓、あるいは受注の拡大ということでの産業振興コーディネーター、同じように観光振興コーディネーターは、長井にいらっしやるお客さんをふやしてもらおう仕組みづくりをします。残念ながら長井の中で足りないのは、そういう仕組みづくり、プロデュースする人っていう言い方をすると一番わかりやすいんですが、つないでいただく方がなかなかいらっしやらなかったんじゃないかと。例えば弁当を開発してくださったんですが、その弁当を食べてもらう人を営業はしてないわけですね。だれかに頼らなきゃいけないわけです。かといって観光協会で営業しているわけではありません。例えばJRとか、JTBとか、クラブツーリズムとか、そういったところに営業はしているんですけども、それを引っ張ってくるというようなことをやってこれなかったと。

ですから、今回は山形鉄道と連携を図りながら、そういった観光コーディネーターを活用しようということで、山形鉄道と関係ある人間を今回観光コーディネーターとして雇用したいという考え方でございます。

あと農工商連携との関係でございますが、観光事業と農工商連携の関係は非常に密接なものがありまして、長井の方の製造業も特に電機とか金属加工が多いわけなんですけども、それと同時に食品加工とか、あるいはお土産につながる木工品の加工とか、そういったものもありますので、そういったところをどういうふうにし

て、いわゆる観光と市内のものづくりをつなげていくかというところを具体的にいろんな取り組みをしなきゃいけないと。菜なポートもそうなんですけど、グリーンツーリズムとか農業の6次産業化とか、そういったところと連携を組んでいくと。あとは市内でも出ましたが農家レストランと、それから農家民宿、そういったものを農工商連携の中で観光振興コーディネーターとかあわせながら仕組みをつくる、あるいは人と人を結びつける、そういったコーディネーターを今回、非常勤でありますけども非常に期待しているところでございます。

あとはまちなか資源を活用した観光・商品の企画・開発にはチーム力が大事なのはと、これは商工観光課長ということになっておりますが、若干ちょっと触れさせていただきますと、やはりチーム力もそうなんですけど、よく観光で言われるのは鶏が先か卵が先かというわけじゃないんですけども、観光にはそれらの観光資源の磨きをかけないとお客さんはいらっしやらない。ただ一応、例えば産業として成り立つには、今度市内の事業者が観光として何か自分たちそのものが変わらないと観光客は喜ばないわけですね。ですから、観光客が来ればそういうふうな対応をしようと思っっている方いらっしやるわけですね。

一方で、観光客は何もないところには来ないわけですから、そこで非常に難しいと。山形鉄道も同じようなことがあったわけですし、それで、じゃあ卵か鶏じゃなくてひよこを連れてこようということで、野村社長みたいな方が多分うまいぐあいに今のところはいつているんだろうと思います。

そういった意味で、この観光振興コーディネーターもひよこだと。ですから、チーム力も大切なんですけど、やっぱり連携をいかにやるかと、そしてつなげてもらう人材をいかに確保するかということが、長井の観光にとっては、まず最

+

初のステップとして大切なんではないかなというふうに思っているところでございます。

私の方から以上でございます。

○町田義昭議長 那須宗一農林課長。

○那須宗一農林課長 谷口栄子議員から黒べこまつりへの影響についてというご質問でございましたが、市長から答弁いただきましたので、若干追加をして私からも答弁をさせていただきたいというふうに思います。

市長からもございましたように、口蹄疫の影響ということで、子牛価格が上がるのではないかとというふうな心配がございましたが、先日行われました福島市場での結果が新聞に出ておりましたが、想定したようなことは余りなかったというふうなことでございます。また、牛肉価格が軟化するのではないかとというふうなことも心配されておったわけですが、今のところは大きな影響は出ていないのではないかとというふうなことです。

県の担当者のお話では、やはり山形牛のブランドというふうな、置賜では米沢牛のブランドなわけですが、それをブランド力を高めて消費拡大につなげていくというふうなことがまず一番大事なことだというふうなことがございました。

そういった意味で、黒べこまつりといいますが、米沢牛の郷でございます長井市の畜産振興という部分が非常に大きな意味合いがございますので、何としても黒べこまつりは成功して、長井なりの皆様方に、また今回100周年でおいでいただく来賓の皆様方に長井市の牛肉のよさを認識いただければなあというふうに考えているところでございます。

チケットにつきましても、おかげさまで市長が申し上げましたとおりほとんどないというふうなことで、来賓の分の調整が今残っているところで、その分をこれから若干販売をすればほぼ完売だというふうな状態になっております。

ぜひ成功に向けて私どもも努力をしてみたいと思いますが、ご協力をいただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

○町田義昭議長 齋藤理喜夫商工観光課長。

○齋藤理喜夫商工観光課長 お答えいたします。

(3)の部分でございますが、どのような人かを考えているのかというふうなことでございましたが、先ほど市長の方からお話もあったように、観光産業を展望した仕組みをつくってもらえる人、それから、そのために必要な、あるいは今後とも地元で引っ張っていただけるような企業者、あるいは観光事業者を育てていただくというふうな2つの視点が重要であろうというふうなことで、今回考えてございますのは、山形市で特定非営利法人山形インキュベータープラザにおきまして創業支援室長をやっている方、また、自分で人材育成等の業務を行うような会社を経営している方で、観光交流事業あるいは起業家育成、それから市街地の活性化と、そういったふうな事業に取り組んでいらっしゃる海藤 明氏、山形市の方でございますが、その方を考えているというふうなことでございます。

それから、チーム力が必要というふうなご意見でございますが、私も同じ考えでございます。ただ、一つのベクトルを持ちながらそれぞれの事業者としての連携を図っていくというふうな意味でのチーム力が必要だろうというふうに考えてございます。

それから7日間についての勤務の体制というふうなことでございますが、今現在での考え方といたしましては、月7日間程度を市の事業に充てていただくというふうなことでございます。当面と申しますか、基本的には長井市の地元の状況を理解してもらい、各種団体と打ち合わせ等を行っていただくというふうなことが基本になると思います。その後には営業等も含めて活動していただくというふうな形態になるだろう

というふうに思います。以上です。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 答弁ありがとうございます。

1番目の口蹄疫の感染問題ですけれども、きのうの山形新聞では、「山形、庄内空港に消毒バッドを設置」ということで、いよいよこっちの方にも来たのかという、そういう感じを受けたんですけれども、やはり伝染病ということで、もう本当に感染がどこに拡大するかわからない状況ということは大変なことなんです。宮崎県では埋却するところを探している間にどうか、大変大きな被害にもなっていた部分もあります。埋設場所などはどのように考えるのでしょうか、市長にお伺いいたします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 そういった埋設場所につきましては、県の方から万一に備えて確保するようになるようなことになっておりまして、午前中の小関議員の答弁でも那須農林課長が答えておりますが、大体3反田んぼが2枚ぐらいの非常に広大な場所があると、あと民間に近かったり、あるいは周りが農地だとなかなか難しいわけなものですから、その辺のところを踏まえて、まだ決定はしておりませんが、今候補地をいろいろ検討しているところでございます。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 ありがとうございます。

8日の日、鶴岡でも一般質問がございまして、最近はこの市町村でも観光振興について交流人口の増加が大きな課題になっているようです。

鶴岡市では、市出身の著名人らをふるさと観光大使として自分のまちの、ここは鶴岡ですので鶴岡の魅力をPRしてもらって誘客につなげたいって考えているっていうような、やはり着地型の観光を目指しておられます。

今回のコーディネーターの設置っていうか、新しい長井市の掘り起こしのために頑張ってい

ただけるコーディネーターの活躍に期待して、本当に長井市をPRしていただけるように、またいろいろ商品の開発とか、そういうものに大きな力を発揮していただけるように期待しているところでございます。

それにはやはりこのように観光大使なんていうのはどのようにお考えになるのか、市長にお願いいたします。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 多くの市町村が、やはり観光大使のような制度を設けておりまして、長井市としてもこれ必要だなあというふうに思っておりますが、なかなか昨年までの財政の厳しい状況の中では組織化するのが難しいのかなあというふうに思っておりましたが、今年度中に何とか、特に首都圏在住の人、あるいは関西・中京圏に在住の人たちに、今まで交流してきた中で協力してくださるとい方が相当程度いらっしゃいますので、そういった方をお願いしていかなくちゃいけないというふうに思っております。今年度中に少しでも前進できるようにしていきたいと思っております。

また、観光振興コーディネーターについては、まずは手始めに山形鉄道の観光客のお客さんを長井におりていただくような商品づくりとその営業をお願いしたいと思っております。山形鉄道では今年度5万人を目標に観光客を、団体客ですけれども乗っていただくというようなことを目標としているわけですし、そのお客様を全部というわけいかなないとしても、フラワー長井線と長井の観光をセットの商品をつくっていただいて、それを募集して、フラワー長井線に乗って、例えばあやめ公園に入ってもらおうと、あやめ公園から丸大扇屋を見てそば屋さんで食べてもらおうとか、あるいはタスとかはぎ苑で五つ星弁当を食べてもらおうとか、お土産はどこかで買ってもらおうとか、そういう商品づくりをやっていると、そして実際にお客さんを連れてきてい

+

ただくという具体的なところを想定しております。

結果として、ことしの早くて秋、あとは来年が数字としてあらわれると思いますけども、観光大使とあわせて観光コーディネーターにそういった商品づくり、あとは観光大使との連携を図ってもらうようにお願いしたいと思っています。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 やはり商品を開発すれば、それを少し市民の皆さんにもわかってもらったり、こういうものをつくったからみんな食べてみてとか、使ってみてというのでPRもやはり大事だと思うんです。

私たちは観光協会の中でも五つ星の長井の弁当づくりに参加させていただきましたけども、はぎ苑さん、タスパークホテルさん、中央会館さんでこの五つ星の弁当は食べられるよって、まだ宣伝がちょっと足りないわけで、せっかくつくっても皆さんにわかってもらえない。

今回、アヤメの季節には、また新しい名前でも小町弁当とか小紫弁当という100周年にふさわしいアヤメの名前を使った弁当も出ているようですけれども、長井の五つ星弁当というもので開発された弁当なんか、やっぱりどこかでPRしていただいて食べていただきたいなあというふうに思っているところです。

さくら回廊、花回廊って、本当に6月30日までの期間ですばらしい1冊のガイドブックになって都市圏にも出てるわけです。秋のキャンペーンのような、またそういう連携をとっての企画っていうか、そういう近隣市町村との連携っていうものは、これからはあるのでしょうか、長井市独自のものになるのでしょうか、そこら辺。

○町田義昭議長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

やまがた花回廊は、JR東日本の方でキャン

ペーンをしてくださっていると。これは山形県の方でそういったところをつないでいただいているわけなんですけど、残念ながらこのキャンペーンは4月から6月までです。ですから、それ以降については、置賜3市5町で構成して置賜の広域の協議会とか、あとは県の方をお願いして新たなキャンペーンをやっていただくとか、そういったことに全体としてはなるかと思っています。

そんなことで、秋以降は具体的にはありませんので、そういった意味では、私は先ほども言いましたように、山形鉄道と組んでいくのが一番効率がいいし、手取り早いんじゃないかというふうに思っています。

あとは、弁当もことし、先ほど谷口議員のお話ですと、あやめ公園の100周年でまた新たな弁当をつくっていただいたということ大変ありがたいと思いますが、やはりそれらをどういうふうにPRしていくかというのは非常に問題だと思います。ですから、それを出してくださるところの、例えば中央会館とか、はぎ苑とか、タスなんかと連携して、やっぱり出してくださるところも頑張ってもらって営業してもらえないだろうと。しかし、行政側としてはそういったところの商品をつくってもらった場合、結局PRしてもなかなかフリー客では難しいわけですね。例えば米沢の駅弁とかみたいに、ある程度一定客のフリー客が買ってくれるような状況では長井ないわけですから、そういった意味ではPRも大切なんですけど、やっぱり確実に食べてもらえるお客様をどういうふうにして確保するかが、結局、数が出ますと今度はそれをつくっていただいているはぎ苑とかタスとか中央会館さんも、それに自分たちみずからが利益になるように努力するというような少し効果が出てくるんじゃないかと。すべてやっぱり人に頼るというのはだめだと思います。それではいつまでたっても産業にならないと。ですから、

そういったところのコーディネーターを考えて
いるところです。

○町田義昭議長 5番、谷口栄子議員。

○5番 谷口栄子議員 以上で終わります。あり
がとうございます。

散 会

○町田義昭議長 本日はこれをもって散会いたし
ます。再開は明日午前10時といたします。
ご協力ありがとうございました。

午後 4時09分 散会

+